

校友会報 113

目次

会長就任にあつて	
南雲 芳夫……………	1
会長の任期を終えて	
丹羽 宏之……………	1
校友会の皆さんへ	
高山 英華……………	2
100周年記念事業募金	
田中 一元……………	2
新しい高校をめざして!	
黒谷 義雄……………	3
100周年記念募金活動報告 ……	5
エステック情報協会設立 ……	6
学園だより……………	7
学園本部 大学	
高等学校 専門学校	
学生・生徒の活躍	
支部だより……………	11
台湾校友会だより	
杜 瑞 昌……………	12
東京地区支部統合……………	13
平成4年度支部総会予定……………	14
部会報告……………	15
お知らせ……………	17
新役員紹介……………	18
全国大会開催のお知らせ……………	19
総会開催のお知らせ……………	20
平成3年度	
事業報告書……………	20
収支計算書……………	21
貸借対照表……………	21
財産目録……………	21
平成4年度	
事業計画(案)……………	22
収支予算計画(案)……………	22

校友会の皆さんへ

学園理事長 高山 英華

工学院の学園も皆さんのご支援で着々とその成果が
がってきました。

平成4年度からは、校地、校舎の充実のみでなく、そ
の教学内容の質的向上もはかれることになるものと確
信します。

新宿校地と八王子校地を併せた二眼の構想を打ちだ
した。基本大綱や基本要綱に基づいて昨年は教学八施策を
結成して、着々とその実現に向けて具体化を進めていま
す。

新宿の再開発計画も本年の10月には待望の中層棟や第
二超高層オフィス棟が完成します。中層棟には専門学校
や情報センターや教職員、学生の食堂、休憩室などが入
り、厚生福祉関係がずっとよくなるでしょう。また一階
には大空間をもって卒業式や各種の催し物に使われるア
トリウムが設けられ地域に開放され、街と一体となった地
区となるでしょう。オフィス棟には主として情報関係の
企業が入りエステック街区として特色が出ることでしょ
う。

また八王子校地では、100周年記念の高等学校の体育
館が昨年末に完成しました。その八王子校地全体の整備
計画も今後着々と進められて行くでしょう。校舎の整備
のみでなく、新しい工業研究所の拡充も計られ、新宿と
一体となって教育研究活動が活発になると思われます。

平成4年度からは、臨時定員増が認められ大学院の独
立や拡充がはかれる一方、二部の再開や専門学校の夜
学部の充実などが計られ、新宿の都心型大学の特色を一
層強めて行くことになると思います。

すでに生涯教育センターは平成3年度に発足し多くの
優秀な講師によって程度の高い公開講座が数多く行われ
て好評です。

また、工学のみにとじこもることなく、広く一般文化
を重視した共通課程の充実や、心の問題を大切に、
総合文化研究所などの構想も実現しつつあります。

このように学園全体としては色々の施策を行っていま
すが、何といたっても工学のみの単科大学ではその学生数
の絶対量に限りがあります。

今後は学園の全体を考えた財政基盤の健全な運営が大
切であります。

オフィス棟などの活用、寄付や研究費拡大など、各方
面にわたって財政基盤の確立が最も大切な時期に入りま
した。

さいわい、100周年記念の各種の募金活動も皆さん方
の御協力でその成果をあげることが出来ました。今後とも
校友会皆さんの変わらない御支援を切にお願いするもの
であります。

100周年記念の一応のくぎりに当りこれまでの御協力
を心から感謝致します。

学園創立100周年記念

事業募金について

学園常務理事 田中 元

(創立100周年記念事業事務局長)

卒業生の皆様には、学園創立100周年記念事業募金に
おきまして、多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます
이었습니다。

100周年記念事業募金は、総合工学研究棟の建設、高
校体育館の建設、教育研究設備の設置及び基金（研究奨
励基金・奨学金）の設置を内容とする創立100周年記念
事業を目的として、昭和62年4月1日からスタートし本
年3月31日をもって終了いたしました。この間、皆様か
らの暖かいご理解とご支援をいただき、感謝の念に堪え
ません。

お申込いただきました金額は、平成4年2月末日現在、
個人4億8千万円（目標額の68.6%）、会社・団体5億
7千万円、合計10億5千万円（同75.0%）に達すること
ができました。このうち校友会関係は、卒業生の皆様か
ら1億8千万円、卒業生の経営する会社等から6千万円
のご寄付をいただいております。

以上のご寄付金と自己資金によりまして、総合工学研
究棟の建設と、創立100周年記念高等学校体育館の建設、
研究奨励基金並びに奨学金の設定等、各種の記念事業を
行うことができました。これらの記念事業は、本学園の
ますますの発展のために欠くことのできないものであり
ます。教育研究設備の設置につきましては、平成4年度
の実施に向けて計画を進行中であります。

なお、事務局では募金終了後、収支決算をまとめ、寄
付者ご芳名を記載した募金報告書を作成し、ご寄付をい
ただきました方々にお送りする予定であります。

最後になりましたが、このたびの募金につきまして、
卒業生の皆様はじめ、校友会並びに同窓会役員の皆様の
暖かいご支援に重ねて深謝申し上げますとともに、今後
とも学園の発展のために一層のご支援、ご協力を賜りま
すようお願い申し上げます、創立100周年記念事業募
金のご報告とさせていただきます。

2階はバスケットボールの練習用コートが2面取られており、試合用コートも取れるようになっております。このフロアには1600席の椅子を並べることが出来、固定されたステージも設けられています。

また、2階アリーナ入口には、直接外から入れるように大階段が取付けられています。

そして、中2階部分と大階段下にクラブの部室が造られました。20年来の懸案であった体育系クラブの部室も出来、喜んでます。

工業科廃止に伴い、財政的見通しが好転を致しましたのと、校友の皆様をはじめとする多くの方々のご寄付の賜物でございます。本当に有難うございました。また、竣工式に際しましても校友会より多額のお祝いを賜り、有難うございました。重ねて御礼を申し上げます。

新しい普通科について

工業科の廃止に伴い、普通科の教科内容を変更致しました。学園の高校としての役割を考え、製図、パソコンな

どを履修させ、工業色を帯びた普通科として特色づけることに致しました。これはやや時代の先取りをした取り組みでございます。

制服の変更について

今年度より全学年普通科になりましたが、これを機会に、制服を山本寛斎氏がデザインした、オリーブ色のスーツに変えることに致しました。新1年から順次着用させますが、教育活動に外観からも刺激を与えようとの試みでございます。

校名変更について

今年度より校名を「附属」をつけて「工学院大学附属高等学校」と変えることに致しました。大学への推薦枠も1部50%、2部20%と合わせて、70%が可能と言うことになり、まさに附属であり、受験生の学校選びに対し、心理的な影響を与えるであろうとの意図であります。

生徒減少期にあたり、生徒募集上少しでも役立つ可能性があればやってみようと言うことで、本学高校の進むべき方向を明確にすることでもあります。大学との連携がこれ迄以上に意識され、併設の利点が積極的に活かされるでしょう。

施設の改善について

すでに、本館と別館との渡り廊下、パソコン教室など、可成り多くの改善工事を行って参りましたが、本年度は更に、医務室、応接室、教育相談室、生徒指導室、進路指導室、進路資料室、多目的教室、生徒会室などの整備致しますし、来年度には、図書館、LJ教室、大教員室、会議室などの整備を予定しています。

これ迄、機械、電気、建築、工業化学、普通の5つの科をもち、限られた財源の中で、何れも施設に不自由をしていましたが、今年度より普通科だけになり、他4科の施設を普通科用に改修することで、かなり良い学習空間、教育空間が出来ることとなります。

変わりつつある高校について、概略をお知らせ致しましたが、常に、より良い高校をめざして教職員一同頑張っておりますので、これからも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。



● エステック情報協会設立

この企画は、校友20名以上（応化会は10名以上）の企業184社を対象としました。

今回の会合の賛同企業は86社（呼び掛回収率：40.2%）当日参加企業は58社、参加数は87名、来賓数は6名（学長・常務理事他）、校友会本部は9名、参加総数は102名であった。

学園より各種資料が配布され、学園の近況・再開発状況・就職情報等の説明があった。つづいて懇親パーティーの宴が賑々しく催された。

各種情報の交換・同業種企業の連帯感・同族企業間の連帯感および異業種交流等々有意義な会合となり、募金抜きでこのような会合開催の宿題を主催者に課せられた次第であります。

同窓会別分布表

機械	応化	電気	建築	高校	専門	備考
社 59	社 ※6	社 66	社 51	社 0	社 3	社 ※+30 (10名以上)

今回参加されなかった方々および今回対象から洩れた企業も今後の企画に共鳴頂ければ幸いです。

この度の企画に賛同され、企業内の募金促進に協力頂くと共に貴所属企業校友の修正情報を多数お寄せ頂き一方、既設企業支部の地盤固めさらに企業支部設置に協力頂いている校友の皆さまのご協力を深謝申し上げます。



着々と準備整う

「エステック情報協会」 設立への現況

現在、入会希望会員（企業）は、約20社。予定数よりかなり下回っていますが、少ない会員でも今秋竣工の「エステック情報ビル」に入居して組織運営できるよう、準備委員会を中心に斬新なアイデアと叡智を結集して鋭意研究しております。

その結果、漸く設立の目途がたち、近い将来、発足できることが確実となりました。

バブル経済がはじけ、経済界は不況の波をうけて、極めて厳しい状況ですが、今こそ、この逆境を乗り越える戦略とパワーが企業に要求される時であります。

最先端インテリジェントビルとして学園街区の一角を占める「エステック情報ビル」に、この情報協会が拠点をもち、ユニークにして、特異な事業活動を会員相互が協力しながら展開することにより、不況を克服して、着実な発展が期待できるものと確信しております。

まだ、入会者の募集を締切っておりませんので、どうぞ、設立の趣旨にご賛同される多くの校友企業の申し込みをお待ちしております。

詳細は、校友会事務局へお問い合わせ下さい。

背景とし、その特徴は、教育・研究の改善、活性化への努力を行っていくための自らの自己評価（点検）の必要性を顕在化したものといえる。

本学は、いま、独自の自己評価システムの構築に向け、全学的な検討を開始した。既に、実施体制を整えるための自己評価委員会規程案の検討が進められている。また、各科目の教育目標はシラバス（講義要項の形態改善）などにより学生に明示した。

今後、考えられる展開としては、評価主体（教育目標・内容）の到達点と課題の明示、評価方法（授業改善に向けた仕組み等）の明確化、評価研究機関（評価方法、項目などの研究）の確立等が挙げられるが、未だ細緻的には未経験などが多く、課題達成には大学人の意志と責任に期待が寄せられているところである。

●入学試験結果について

1992年度大学入試は、第1部前期試験を2月6日～9日、第1部後期試験を3月7日、第2部試験を3月6日にそれぞれ行った。出願者の状況は前年比第1部555名増、第2部208名増となった。また女子志願者の伸率はめざましく、前年実績の31%を大幅に上回る1,215名となった。

高等学校

●クラブ活動

野球部の活動は、目覚ましいものがありました。西東京大会でベスト4に輝き、もしかしたらと期待した興奮はいまでも脳裏に焼きついています。新チームで戦った秋季大会でもベスト16、4年度に大きな期待を持たせてくれました。柔道部は3年連続関東大会へ出場、自然科学部は日本学生科学賞で学校賞1位（水ロケットの研究）と活躍してくれました。体育館の完成がさらにクラブ活動を活発にし、その成果を著しいものにしてくれることと思います。



●就職状況

平成3年度の就職状況は前年同様、各企業の積極的な採用活動により、予想を上回る『短期集中型』になった。

求人会社数は8,204社で、前年比363社増加した。このうち従業員1万人以上の会社からの求人は73社、資本金100億円以上の企業からの求人は461社と前年に比べ73社増加している。

求人延数は23,972人、求人倍率は26倍である。就職内定者を業種別に見ると、電気電子機器が圧倒的に多く、以下建設業、輸送用機器、機械機器、情報処理等となり、首都圏への一極集中化がより顕著であった。

また、大学院進学率も年々高まっており、今年度は全学科で100人を超える状況である。

●進路状況

1月末現在の進学者は、工学院大学I部144名、II部61名、都立大、日大、神奈川工科大、大正大、帝京大、東京理科大に2名、短期大学に6名、工学院大学専門学校に25名、他専門学校に83名の状況で、進学決定率は約73%です。

就職は、例年のように数多くの求人会社があり、希望者36名全員10月末に内定しています。

●入学応募状況

平成4年度の入学応募状況は定員男子400名に対して、1075名の応募があった。

●ごあいさつ

会長就任にあたって

南雲 芳夫

会員の皆様、この度、丹羽会長の後を受け会長の任をお受けする事になりましたのでご挨拶申し上げます。

会員諸兄の中には国内はもちろん国際社会で、ご活躍の方々が多数居られるのに、私ごとき者が会長になどと、憚られる思いでございます。

工学院の校友の一人として、学園および校友会の発展を祈る気持ちは、誰にも負けない気持ちはあるものの、なんら特別の貢献をしたことのない私が、会長をお受けすることは、自らを省みて迷える小羊のような選択でありました。しかしながら、お受けした以上、精いっぱい頑張るつもりでございますので、何卒ご支援のほどお願いいたします。

校友会は校友の親睦と学園の発展に寄与することが、二大使命であり、この目的に向かって、歴代会長および先輩諸兄が営々築き上げてこられた流れを、少しでも勢いを増すことに微力ながら努力していくつもりであります。

各支部などに回って感じますことは、私は職場には「工学院出身だとは言っていない」という話をよく耳にします。これでは母校に愛着など生まれてきません。私達卒業生一人々が「工学院」の出身であることを家族に、友人に、地域社会に、さらには関係の各界に胸を張って、言えるようであればなりません。そのためには学園歌にあるように「工業日本を築きたり」の先輩の教えと自信を私達で取りもどそうではありませんか。

すでに学園では、就学人口が激減していく中でも、名声と発展のために、諸々の努力と実行が計られていることは、見聞されて居られることと存じます。校友会もこの役割の一端を担って行かなければなりません。工学院大学の名声と発展は、併設されている専門学校および高等学校にも連なり、校友会及び校友の誇りの根源です。

「年々歳々、花相似たり。歳々年々人同じからず」とは、古来からの真理です。花とは学園であり校友会です。この花が自然の花のように人間世界の転換に煩わされることなく、いつまでも見事に咲き、新しい時代の青年達の心をひきつけるように、私は会長の任にある間は、心を砕いて行きたいと思っております。

会長の任期を終えて

丹羽 宏之

光陰矢の如しのたとえのように、任期3年を今にして思えば速いと感じる反面、矢張り長いという印象はぬぐいきれません。

ところで、本校友会は、大学4系列学科、専門学校そして高校の6ブロックの卒業生会員を擁する大きな組織であります。この組織は、100年を越す歴史ある学園を背景にしている関係上、他に例を見ない極めてユニークな団体であると同時に、各ブロックの共通した利害得失に視点、目標を求めなければならないため、特定のブロックを主体とした積極的な活動、集中的な活動において、エネルギーの集中化がどうしても稀釈されてしまうという問題を看過できませんでした。

しかし乍ら、私にとって最も強く脳裏に残っていることは、校友会創立90周年事業の一環として行われた平成元年11月11日開催の記念式典とその祝賀会であります。

学園の再開事業で完成した新宿高層棟の最新施設に、全国より多数の会員の皆様が一堂に会し、先輩の功績をたたえ、懐古し、旧友との再会と親友、そして師弟の絆をより強くできたことなど校友会活動にとっても、洵に意義ある行事を遂行できたと喜んでおります。

また、平成2年に行われた静岡での全国大会も忘れ得ぬ大きなイベントでありました。その他、各部会の地道な活動、100周年記念募金事業協力委員会など特別委員会の活動、全国支部活動への支援、協力など数多くの事業活動を通じて本部役員、地方支部の会員の暖かい協力を忘れるものではありません。

さらに、事務局長始め、事務局職員の事務協力に対しても心から感謝するものであります。

そして、何はともあれ、学園側の絶大なご好意、ご協力、ご支援に対して、最大の敬意を表するものであります。

新しい時代に向けて、校友会の益々の発展を祈念するものであります。

校友会の皆さんへ

学園理事長 高山 英華

工学院の学園も皆様のご支援で着々とその成果があがってきました。

平成4年度からは、校地、校舎の充実のみでなく、その教学内容の質的向上もはかれることになるものと確信します。

新宿校地と八王子校地を併せた二眼の構想を打ちだした。基本大綱や基本要綱に基づいて昨年は教学八施策を結成して、着々とその実現に向けて具体化を進めています。

新宿の再開設計画も本年の10月には待望の中層棟や第二超高層オフィス棟が完成します。中層棟には専門学校や情報センターや教職員、学生の食堂、休憩室などが入り、厚生福祉関係がずっとよくなるでしょう。また一階には大空間をもって卒業式や各種の催し物に使われるアトリウムが設けられ地域に開放され、街と一体となった地区となるでしょう。オフィス棟には主として情報関係の企業が入りエステック街区として特色が出ることでしよう。

また八王子校地では、100周年記念の高等学校の体育館が昨年末に完成しました。その八王子校地全体の整備計画も今後着々と進められて行くでしょう。校舎の整備のみでなく、新しい工業研究所の拡充も計られ、新宿と一体となって教育研究活動が活発になると思われます。

平成4年度からは、臨時定員増が認められ大学院の独立や拡充がはかれる一方、二部の再開や専門学校の夜学部の充実などが計られ、新宿の都心型大学の特色を一層強めて行くことになると思います。

すでに生涯教育センターは平成3年度に発足し多くの優秀な講師によって程度の高い公開講座が数多く行われて好評です。

また、工学のみにとじこもることなく、広く一般文化を重視した共通課程の充実や、心の問題を大切に、総合文化研究所などの構想も実現しつつあります。

このように学園全体としては色々の施策を行っていますが、何と云っても工学のみの単科大学ではその学生数の絶対量に限りがあります。

今後は学園の全体を考えた財政基盤の健全な運営が大切であります。

オフィス棟などの活用、寄付や研究費拡大など、各方面にわたって財政基盤の確立が最も大切な時期に入りました。

さいわい、100周年記念の各種の募金活動も皆さん方の御協力でその成果をあげることが出来ました。今後とも校友会皆さんの変わらない御支援を切に願いますのであります。

100周年記念の一応のくぎりに当りこれまでの御協力を心から感謝致します。

学園創立100周年記念

事業募金について

学園常務理事 田中 元

(創立100周年記念事業事務局長)

卒業生の皆様には、学園創立100周年記念事業募金におきまして、多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。ありがとうございました。

100周年記念事業募金は、総合工学研究棟の建設、高校体育館の建設、教育研究設備の設置及び基金(研究奨励基金・奨学金)の設置を内容とする創立100周年記念事業を目的として、昭和62年4月1日からスタートし本年3月31日をもって終了いたしました。この間、皆様からの暖かいご理解とご支援をいただき、感謝の念に堪えません。

お申込まいただきました金額は、平成4年2月末日現在、個人4億8千万円(目標額の68.6%)、会社・団体5億7千万円、合計10億5千万円(同75.0%)に達することができました。このうち校友会関係は、卒業生の皆様から1億8千万円、卒業生の経営する会社等から6千万円のご寄付をいただいております。

以上のご寄付金と自己資金によりまして、総合工学研究棟の建設と、創立100周年記念高等学校体育館の建設、研究奨励基金並びに奨学金の設定等、各種の記念事業を行うことができました。これらの記念事業は、本学園のますますの発展のために欠くことのできないものであります。教育研究設備の設置につきましては、平成4年度の実施に向けて計画を進行中であります。

なお、事務局では募金終了後、収支決算をまとめ、寄付者ご芳名を記載した募金報告書を作成し、ご寄付をいただきました方々にお送りする予定であります。

最後になりましたが、このたびの募金につきまして、卒業生の皆様はじめ、校友会並びに同窓会役員の皆様の暖かいご支援に重ねて深謝申し上げますとともに、今後とも学園の発展のために一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。創立100周年記念事業募金のご報告とさせていただきます。

新しい高校をめざして！

工学院大学附属高等学校

校長 黒谷 義雄

校友の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜びを申し上げます。さて、広報部より体育館の完成、校名の変更など変わりゆく高校の姿について原稿を頂きたいとのことですので、高校の最近の状況と将来の展望についてご紹介させて頂きたいと存じます。

すでにご案内のように、本学高校は平成2年度より工業科の募集を停止致しました。そして、普通科の定員を倍の400名に増やし、普通科高校として充実・発展させて行くことになりました。

ご承知のように、このところ高校受験生である15歳人口が減少致しており、とくに平成2年度から4年度迄の3年間は、元年度に比べ20%もの減少で急減期と言われ、どこの学校も真剣に対策を検討し、対処して参ったところであります。

本学高校では、10数年前から工業科をどうするかという問題があり、検討を致しておりましたが、同僚間では仲々議論も出来ず、生徒急減期対策も立てられずにいました。ところが、昭和63年に体育館建て替えの話を具体化させなければならないことで、否応なしに高校のあり方について徹底的に検討せざるを得なくなりました。

その結果、将来を考える基本原則として、「第一に高校自体として財政的に健全であること、第二に時代に相応しい高校であること、そして第三に学園の高校として併設の大学・専門学校と整合性をもつこと」との方針を立てました。

これは、学園の将来計画に高校として積極的に関わる手だてであります。高校はこの方針に基づいて、工業科を廃止した訳であります。

工業科を廃止致しますことは、学校発展のためとは言え、容易なことではありませんでした。しかし、さほどの混乱もなく移行出来たのは、教職員を始めとする関係各位のご理解・ご協力によるものと、心より感謝致しております。

今や高等学校は、教職員一同の協力のもとに、積極的に、学園の高校として時代に相応しい学校づくりを展開しております。つぎにその一端をご紹介させて頂きます。



新体育館の完成について

生徒・教職員ともに待望の学園創立100周年記念体育館が、昨年12月に完成を致しました。

竣工式は12月24日（火）に、高山理事長・波多野八王子市長はじめ多くの方々のご出席を頂き挙行了いたしました。

2階建てで、1階は柔道場と多目的利用のフロアに分かれ、これらのスペースに隣接したブロックには、シャワー室、更衣室、教員控え室などが設けられています。



2階はバスケットボールの練習用コートが2面取られており、試合用コートも取れるようになっております。このフロアには1600席の椅子を並べることが出来、固定されたステージも設けられています。

また、2階アリーナ入口には、直接外から入れるように大階段が取付けられています。

そして、中2階部分と大階段下にクラブの部室が造られました。20年来の懸案であった体育系クラブの部室も出来、喜んでます。

工業科廃止に伴い、財政的見通しが好転を致しましたのと、校友の皆様をはじめとする多くの方々のご寄付の賜物でございます。本当に有難うございました。また、竣工式に際しましても校友会より多額のお祝いを賜り、有難うございました。重ねて御礼申し上げます。

新しい普通科について

工業科の廃止に伴い、普通科の教科内容を変更致しました。学園の高校としての役割を考え、製図、パソコンな

どを履修させ、工業色を帯びた普通科として特色づけることに致しました。これはやや時代の先取りをした取り組みでございます。

制服の変更について

今年度より全学年普通科になりましたが、これを機会に、制服を山本寛斎氏がデザインした、オリーブ色のスーツに変えることに致しました。新1年から順次着用させますが、教育活動に外観からも刺激を与えようとの試みでございます。

校名変更について

今年度より校名を「附属」をつけて「工学院大学附属高等学校」と変えることに致しました。大学への推薦枠も1部50%、2部20%と合わせて、70%が可能と言うことになり、まさに附属であり、受験生の学校選びに対し、心理的な影響を与えるであろうとの意図であります。

生徒減少期にあたり、生徒募集上少しでも役立つ可能性があればやってみようと言うことで、本学高校の進むべき方向を明確にすることでもあります。大学との連携がこれ迄以上に意識され、併設の利点が積極的に活かされるでしょう。

施設の改善について

すでに、本館と別館との渡り廊下、パソコン教室など、可成り多くの改善工事を行って参りましたが、本年度は更に、医務室、応接室、教育相談室、生徒指導室、進路指導室、進路資料室、多目的教室、生徒会室などの整備致しますし、来年度には、図書館、L1教室、大教員室、会議室などの整備を予定しています。

これ迄、機械、電気、建築、工業化学、普通の5つの科をもち、限られた財源の中で、何れも施設に不自由をしていましたが、今年度より普通科だけになり、他4科の施設を普通科用に改修することで、かなり良い学習空間、教育空間が出来ることになります。

変わりつつある高校について、概略をお知らせ致しましたが、常に、より良い高校をめざして教職員一同頑張っておりますので、これからも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。



冬服

夏服

●100周年記念事業募金活動報告

過去5年間の長期に及んだ学園創立100周年記念事業募金も、本年3月31日をもって終了しました。

目標3億を達成することが出来ず、まことに残

念ですが、ご寄付をいただきました皆様の暖いご支援と多大なるご協力に心より感謝申し上げます。

なお、校友会各同窓会別募金結果(平成4年2月末日現在)を、次表通りご報告いたします。

(単位:円)

区分	件数	金額	
卒業生	5,590	180,744,360	
在学学生 在学父母	大学	4,133	170,947,500
	高等学校	2,325	60,160,000
	専門学校	1,780	36,410,000
	小計	8,238	267,517,500
人	役員・教職員 (外. 104)	26,121,854 (外. 13,850,000)	
	元教職員等	107	8,250,000
合計 (A)	14,122	482,633,714	
会社・団体 (第2期) (B)	505	323,743,400	
総計 (A+B)	14,627	806,377,114	

各同窓会	金額(円)
機械同窓会	32,994,360
応化会	30,933,000
電気同窓会	24,996,000
建築同窓会	29,181,000
高校同窓会	16,758,000
専門同窓会	31,988,000
工手学校	13,894,000
卒業生の経営する企業	61,665,000
合計	242,409,360

- [注] 1. 募金目標額 申込金額 払込金額
個人 7億円 482,633千円 478,221千円
会社・団体(第2期) 4億円 323,743千円 324,843千円
2. 会社・団体の1・2期累計: 申込金額565,643千円、払込金額564,533千円
(同累計には卒業生の経営する企業及び校友会等からの寄付61,665千円を含む)
3. (外.) は本学園卒業生で、卒業生欄に含まれているものの再掲。

校友多数在職企業世話役懇話会について

平成3年10月26日に校友多数在職企業世話役懇話会が母校で開催された。

この会の目的は、100周年記念事業募金促進の一助として企画されました。

世話役懇話会の開催を経て、募金実績は平成3年度末を以て成功裡に幕を閉じた。この懇話会は今後の校友活動の支柱の一つとなると考えられます。



●エステック情報協会設立

この企画は、校友20名以上(応化会は10名以上)の企業184社を対象としました。

今回の会合の賛同企業は86社(呼び掛回収率: 40.2%)当日参加企業は58社、参加数は87名、来賓数は6名(学長・常務理事他)、校友会本部は9名、参加総数は102名であった。

学園より各種資料が配布され、学園の近況・再開発状況・就職情報等の説明があった。つづいて懇親パーティーの宴が賑々しく催された。

各種情報の交換・同業種企業の連帯感・同族企業間の連帯感および異業種交流等々有意義な会合となり、募金抜きでこのような会合開催の宿題を主催者に課せられた次第であります。



着々と準備整う

「エステック情報協会」 設立への現況

現在、入会希望会員(企業)は、約20社。予定数よりかなり下回っていますが、少ない会員でも今秋竣工の「エステック情報ビル」に入居して組織運営できるよう、準備委員会を中心に斬新なアイデアと叡智を結集して鋭意研究しております。

その結果、漸く設立の目途がたち、近い将来、発足できることが確実となりました。

同窓会別分布表

機械	応化	電気	建築	高校	専門	備考
社 59	社 ※6	社 66	社 51	社 0	社 3	社 ※+30 (10名以上)

今回参加されなかった方々および今回対象から洩れた企業も今後の企画に共鳴頂ければ幸いです。

この度の企画に賛同され、企業内の募金促進に協力頂くと共に貴所属企業校友の修正情報を多数お寄せ頂き一方、既設企業支部の地盤固めさらに企業支部設置に協力頂いている校友の皆さまのご協力を深謝申し上げます。

バブル経済がはじけ、経済界は不況の波をうけて、極めて厳しい状況ですが、今こそ、この逆境を乗り越える戦略とパワーが企業に要求される時であります。

最先端インテリジェントビルとして学園街区の一角を占める「エステック情報ビル」に、この情報協会が拠点をもち、ユニークにして、特異な事業活動を会員相互が協力しながら展開することにより、不況を克服して、着実な発展が期待できるものと確信しております。

まだ、入会者の募集を締切っておりませんので、どうぞ、設立の趣旨にご賛同される多くの校友企業の申し込みをお待ちしております。

詳細は、校友会事務局へお問い合わせ下さい。

●学園だより

学園本部

平成3年度の学園関係者の叙勲および受賞の方々はこちらのとおり。

勲二等瑞宝章

横堀武夫 機械工学科兼任教授

勲三等瑞宝章

境野照雄 元工業化学科教授

古川利夫 名誉教授

(社)日本セラミックス協会より

協会振興功労賞

関谷道雄 工業化学科教授

支部功績賞

瀬戸山克己 工業化学科教授
日本オペレーションズ・リサーチ学会より

OR事例研究奨励賞

矢部眞 機械系学科教授

WFEO (世界工学団体連盟)

国際最高エンジニア賞

尾佐竹侑理事

(財)吉岡文庫育英会より

吉岡賞 (新人賞)

谷口宗彦 建築学科助教授

(社)日本設計工学会より

教育功労賞

山本清 専門学校主理

大学

●(仮称)自己評価委員会の設置に向けて

大学は、これまで真理の探求、人格の形成、学術文化の継承を社会から負託された使命として、その役割を果

たしてきた。しかし、社会の国際化、高度化、多様化等の動きの中で、大学の役割・機能が改めて問い直されている。例えば、教育目標のいっそうの明確化、人間の生涯の様々な段階における個としての知的要求に応えることなどが求められている。

改正された大学設置基準は、このような社会的動向を

1992年度 入学試験結果

部	学科・コース	入学定員	志願者数		合格者数		志願者の前年比増減	
			前期試験	後期試験	前期試験	後期試験	前期試験	後期試験
第1部	機械系学科	300	3,261	376	633	33	▼502	△7
	工業化学科	150	1,286	111	413	20	▼173	▼11
	化学工学科	100	645	74	209	11	▼59	△26
	電気工学科	150	1,837	143	421	26	△390	△25
	電子工学コース	200	1,654	117	285	12	▼148	△7
	情報工学コース		2,101	248	268	14	△34	△75
第2部	建築学コース	260	2,721	403	359	58	△892	▼8
	都市建築デザインコース		1,448	332	161	26		
	合計	1,160	14,953	1,804	2,749	200	△434	△121
第2部	機械工学科	120		476		92		△74
	工業化学科	90		330		83		△107
	電気工学コース	110		161		28		△27
	電子工学コース			163		44		△11
	情報工学コース			261		33		△19
	建築学科		110		460		115	
合計	430		1,851		395		△208	

背景とし、その特徴は、教育・研究の改善、活性化への努力を行っていくための自らの自己評価(点検)の必要性を顕在化したものといえる。

本学は、いま、独自の自己評価システムの構築に向け、全学的な検討を開始した。既に、実施体制を整えるための自己評価委員会規程案の検討が進められている。また、各科目の教育目標はシラバス(講義要項の形態改善)などにより学生に明示した。

今後、考えられる展開としては、評価主体(教育目標・内容)の到達点と課題の明示、評価方法(授業改善に向けた仕組等)の明確化、評価研究機関(評価方法、項目などの研究)の確立等が挙げられるが、未だ組織的には未経験なところが多く、課題達成には大学人の意志と責任に期待が寄せられているところである。

●入学試験結果について

1992年度大学入試は、第1部前期試験を2月6日～9日、第1部後期試験を3月7日、第2部試験を3月6日にそれぞれ行った。出願者の状況は前年比第1部555名増、第2部208名増となった。また女子志願者の仲率はめざましく、前年実績の31%を大幅に上回る1,215名となった。

高等学校

●クラブ活動

野球部の活動は、目覚ましいものがありました。西東京大会でベスト4に輝き、もしかしたらと期待した興奮はいまでも脳裏に焼きついています。新チームで戦った秋季大会でもベスト16、4年度に大きな期待を持たせてくれました。柔道部は3年連続関東大会へ出場、自然科学部は日本学生科学賞で学校賞1位(水ロケットの研究)と活躍してくれました。体育館の完成がさらにクラブ活動を活発にし、その成果を著しいものにしていくことと思います。



●就職状況

平成3年度就職状況は前年同様、各企業の積極的な採用活動により、予想を上回る『短期集中型』になった。求人社数数は8,204社で、前年比363社増加した。このうち従業員1万人以上の会社からの求人は73社、資本金100億円以上の企業からの求人は461社と前年に比べ73社増加している。

求人延数は23,972人、求人倍率は26倍である。就職内定者を業種別に見ると、電気電子機器が圧倒的に多く、以下建設業、輸送用機器、機械機器、情報処理等となり、首都圏への一極集中化がより顕著であった。

また、大学院進学率も年々高まっており、今年度は全学科で100人を超える状況である。

●進路状況

1月末現在の進学者は、工学院大学I部144名、II部61名、都立大、日大、神奈川工科大、大正大、帝京大、東京理科大に2名、短期大学に6名、工学院大学専門学校に25名、他専門学校に83名の状況で、進学決定率は約73%です。

就職は、例年のように数多くの求人があり、希望者36名全員10月末に内定しています。

●入学応募状況

平成4年度の入学応募状況は定員男子400名に対して、1075名の応募があった。